

2016年5月1日(日)朝10:10～

復活節第6、オリーブ会等

5月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：神の国到来の奥義・黙示

聖書：ヨハネの黙示録 1章1～3節

＜口語訳＞

新約聖書386頁

ヨハネの黙示録 1章1～3節

＜新共同訳＞

新約聖書452頁

ヨハネの黙示録 1章1～3節

＜新改訳第3版＞

新約聖書476頁

ヨハネの黙示 1章1～3節＜塚本訳＞

新約聖書777頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。

◇ヨハネ黙示録1章1～8節は、序言ですが、前半の1～3節は、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばで、「幸福」(3)という表現の中に、ヨハネの思いと黙示の神の御子イエス・キリスト様の思い・愛が込められています。

⇒ヨハネの黙示録は、無理に解釈しない方がよい箇所も確かにありますが、決して難解な書ではなく、7つのアジアの教会宛ての書簡で、受取人が理解できるものでなければならなかったのです。

⇒ユダ書で見た「不敬虔ἀσεβής」者は、「神礼拝をするσέβομαι」ことをないがしろにしましたが、ヨハネの黙示録も、「神礼拝をするσέβομαι」ことへの神の御子の黙示なのです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第1章1～3節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録1章1節；この「黙示」は、神の御子イエス・キリスト様と神のしもべヨハネにより、すべての神のしもべに与えられた書簡です。

◇1～3節；塚本訳◆序言

「1 これは(王国来臨の奥義に関し)イエス・キリストの(与え給うた)黙示(である。)すなわち(必ず)直に起こらねばならぬことをその僕達に示すために、神が彼に与え給うたものを、彼がその使いを遣ってその僕ヨハネに示し給うたものである」と、ヨハネは語っています。

◇1節；「(王国来臨の奥義に関し)イエス・キリストの(与え給うた)黙示」で、「(必ず)直に起こらねばならぬことをその僕達に示すため」、「神が彼(神の御子イエス・キリスト様)に与え給うたもの」、「彼(神の御子イエス・キリスト様)がその使い(天使)を遣ってその僕ヨハネに示し給うたものである」と、ヨハネは語っています。

- ⇒この**黙示**の源は、**神**で、「**神の御子イエス・キリスト様**」や「**ヨハネ**」も、「**黙示**」されないことを語っていないのです(**ヨハネの黙示録 22章18～19節**)。
- ⇒**神の使徒ヨハネの老練な思索**は大事ですし、**神の教会への迫害者、ローマ皇帝の存在**を抜きにして、**ヨハネの黙示録**を読むことはできませんが、**ヨハネ**が、福音書や書簡で語って来ました「**神の愛**」なしに読んではなりません。
- ⇒**神の御子イエス・キリスト様の再臨**も、**神**への「**不敬虔**ἀσεβής」者には確かに裁きの時ですが、**神信仰者**、「**神礼拝をする**σέβομαι」者には、**神の救い完成の時**です。
- ⇒**ヨハネの黙示録 22章 20節**のように、「**主イエスよ、来たり給え!**」と、最高の**神讚美**で、**神の御子イエス・キリスト様**をお迎えしたいと願います。
- ⇒**ヨハネの黙示録の目的**は、**神の御子イエス・キリスト様の再臨の約束**を確信させ、苦難の多い地上の生活の中で、これに耐え、**神信仰**から**神信仰**へと、喜びをもって歩ませることなのです。

◆黙示録1章2～3節;この「黙示」は、神の御子イエス・キリスト様と神のしもべヨハネが、神のしもべとして忠実に生きている神信仰者に「幸い」を告げている書簡です。

◇1～3節;塚本訳◆序言

「2 (それで)彼(ヨハネ)は(今)神の言と、イエス・キリストの(為し給うた)証明、すなわち彼が(自ら異象の中に)見(また聞い)た(一切の)こと(について、その真実であること)を証明する。

3 幸福なる哉、この預言の言を朗読する人、及び(それを)聞いて、その中に書かれてある(一切の)ことを守る人々！(この言の成就する)時が(はや既に)近いからである」と、ヨハネは語っています。

◇3節;「幸福なる哉、この預言の言を朗読する人、及び(それを)聞いて、その中に書かれてある(一切の)ことを守る人々！(この言の成就する)時が(はや既に)近いからである」と、ヨハネは語っています。

⇒「神礼拝をするσέβομαι」ことは、神の「幸福」と結びついています(マタイ5章の山上の説教)

◇2節；「**神の言と、イエス・キリストの(為し給うた)**」ことと、「**彼(ヨハネ)が(自ら異象の中に)見(また聞いた)一切のこと(について、その真実であること)**」を「**証明する**」と、ヨハネは語っています。

⇒「**証明するμαρτυρέω**」は、「**証拠に基づいて証言する**」ことを意味することばです。

⇔その**真実な証拠**が、「**神の言と、イエス・キリストの(為し給うた)こと**」と、「**彼(ヨハネ)が(自ら異象の中に)見(また聞いた)一切のこと(について、その真実であること)**」に集約されています。

⇒「**神の言と、イエス・キリストの(為し給うた)**」は、**神の使徒たちとの地上での神の御子イエス・キリスト様の神信仰と生活**そのものです。

⇒**神の御子イエス・キリスト様**は、**父なる神の言**に聴き、且祈らないで、自分の思いのままに行動されることはなかったし、**神の僕、ヨハネ**も同様で、**ヨハネも、神の聖霊**に満たされ、**神の言に聴き従うことを優先する**ようになる前は、**ボアネルゲ・雷の子**と言われるほど**神無視**でしたが、今は、**神に聴き従う人**でした。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ヨハネの黙示録**は、1章1節、「**イエス・キリストの黙示**」とありますように、**神の御子イエス・キリスト様**が、**天使**を通して(1)、**長老・使徒ヨハネ**に与えた「**神の国到来の奥義**」の黙示で、**ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代**に記録されたものと理解されています。
- ◇**ヨハネ黙示録1章1～8節**は、**序言**ですが、前半の1～3節は、**神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰**を持って生きる**キリスト者**への励ましのことばで、「**幸福**」(3)という表現の中に、**ヨハネの思いと黙示の神の御子イエス・キリスト様の思い・愛**が込められています。
- ⇒「**さばき**」は、**神の専権事項**ですが、同時に、**神の恵み**も、**神の専権事項**です。
- ⇒「**神礼拝をするσέβομαι**」に全力を注ぎたい。
- ⇒この「**神のさばき**」と「**神の愛と恵み**」の基本原則は、**ヨハネの黙示録**も、変わりません。
- ⇒未来を見過ぎて、今の現実を見ない**神信仰**、「**神礼拝をするσέβομαι**」ことは、危険で、**神の御子イエス・キリスト様**は、**共におられます**。